産業観光
きりゅう紀行㉒

全国に誇る機械制大工場 水力発電も先駆ける

日本織物株式会社発電所跡

明治20年（1887）に佐羽喜六が中心となって設立した日本織物株式会社は桐生における最初の機械制大工場であったという点で画期的な意味を持つものだった。国産繻子織物を生産するために造られ、従業員は600人、欧米各国の力織機430台を導入、撚糸からボイラーによる染色整理を一貫して行った。

この動力確保のため、丸山下の岩盤を掘削し、底幅２メートル、上幅５メートル、深さ１メートルの導水路延長１キロメートルを築き、渡良瀬川の水を引き入れてタービンを回し、工場の動力としたほか一部で発電まで行った。使用水量は毎秒３立法メートル、勾配1000分の１、落差11メートルだったと言われている。

168馬力のアメリカ製タービンを据え付け、一対の傘歯車と広幅ベルトにより工場の主軸に伝動させ、明治22年（1889）６月に運転を始めた。また、この余力を使って100キロワット、240ボルトの交流発電機を稼働、同24年（1891）に工場と寄宿舎に400灯の電灯を点灯した。群馬県で最も古い水力発電所とされている。

現在、残されている発電機は大正年間に取り換えられたドイツ製のもの。昭和22年（1947）の水害で導水路が決壊されるまで58年間にわたり稼働した。

隣接する煉瓦積遺構は日本織物株式会社創立当所のもので、桐生市の近代化を象徴する産業遺産として、桐生市指定史跡となっている。

●住　　所／桐生市織姫町６－１
●桐生市指定史跡
　旧日本織物株式会社発電所および煉瓦積遺構